令和３年度　京都市立西総合支援学校教育課程構造図

学校教育目標

「できる」自分を知り，夢や希望を持って，自ら
ひと・もの・ことに向かう子どもを育てる

教育理念

●児童生徒は できる状況や手だてがあれば「できる」存在 である
●児童生徒を 地域に生きる一人の生活者 としてとらえる

・子ども自身の志向を育み，尊重する
・発達の道筋に沿い，生活年齢を大切にする
・個別の包括支援プランによる
　　子どもの「生きる力」と保護者への支援
・実際に生きる地域で学習を展開する
・一学級一担任制の継続

めざす子どもの姿

・あいさつする人
・そうじをがんばる人
・べんきょうをがんばる人
・健康な体づくりに努める人
・自分も友だちも大切にする人
・責任を持って最後までやり抜く人
・自分で選び，自分で決める人
・自分で目標を立て，目標に向かって努力する人

めざす学校の姿　**ー笑顔(Smile)のあふれる学校ー**

・子どもたちが楽しく学べる学校

・保護者が子どもの成長を実感できる学校

・地域から信頼される学校

・教職員がやりがいを持って働ける学校

指導の重点

・子どもの「できる」を活かす教育の推進

・的確なアセスメントの実施

・コミュニケーションの充実

キーワード　「できる」を活かす授業づくり　アセスメント　コミュニケーションの充実

各学部・家庭・地域の継続性（受け継ぎ）と連続性（つながり）のあるライフステージに応じた教育

指導部重点目標

小学部

のびのび遊び，自信を持って，自ら活動する

めざす子どもの姿

●健康で丈夫な体をつくる
●身近なひと・もの・ことに，自らかかわる
●新しいことに挑戦しながら，好きなこと，楽しいことを，自ら見つけ，自ら選び，自ら活動する
●ひととのかかわりを深める中で,「できる」自分を知り，役割を果たそうとする

指導の重点

◆様々な発達，障害，特性を踏まえ，個別の包括支援プランをもとに，一人一人に応じたカリキュラムをつくり，成功体験を重ねながら「生きる力」の基礎基本を培う指導を展開する
◆一人一人に応じた，できる状況づくりや支援を工夫し,「できる」を育て,「できる」を活かす授業づくりを行う
◆家庭・地域・学校における「できる」について，保護者や諸機関（居住地校を中心として）と連携する中で情報共有を強化し，連続的，継続的な支援を行う

キャリアアップ支援コーディネータの役割

●「できる」を活かして交流及び共同学習を進める

中学部

学校や家庭や地域とのかかわりの中で，自ら考え，自ら活動する

めざす子どもの姿

●健康で丈夫な心と体をつくる
●地域の中で，ひと･もの･こととのかかわりを広げ，深める
●友達や支援者と一緒に取り組む中で，自分の気持ちを発信し，相手の気持ちをわかろうとする
●地域や家庭生活の中で，「できる」自分を知り，自ら役割を果たそうとする

指導の重点

◆できる状況づくりや支援を工夫し,「できる」を育て「できる」を活かす授業づくりをすすめる
◆指導者間の連携を深め，一人一人の生徒が地域でより豊かに生活していくための手立てを共有する
◆居住地域の様子や活用できる地域資源を調べ，授業に活かす
◆家庭・地域・学校における「できる」について，保護者や諸機関（居住地校を中心として）と連携する中で情報共有を強化し，連続的，継続的な支援を行い，広げる

キャリアアップ支援コーディネータの役割

●「できる」を活かして交流及び共同学習，地域での学習を進める

高等部

社会の一員として，自ら学び，自ら行動する

めざす子どもの姿

●社会の一員として生きるための，心と体の健康づくりに努める
●ひと・もの・こととのかかわりの中で，必要な時に，必要な支援を自ら求める
●「できる」ことを通して，社会の一員として，自ら役割を担い，継続的にキャリアアップしようとする

指導の重点

◆一人一人の「できる」を卒業後の生活に活かす授業を展開する
◆社会の一員として役割を担う将来の姿を生徒・保護者とともに具体的・現実的にイメージし，実習や地域資源の活用を通して生徒をとりまく社会に働きかける
◆生徒が地域で豊かに生活するためにネットワークを構築し，家庭・地域・学校における「できる」について，保護者や諸機関と連携する中で情報を共有する

キャリアアップ支援コーディネータの役割

●「できる」を活かして働くことを学ぶ学習を進める
●２年生時点での「できる」姿を３年生の進路選択・決定に繋ぐ

質の高い情報を伝えつなぐ

総務部重点目標

●教職員一人一人が，学校教育目標を実現する主体者として，自らの果たすべき役割を明確にし，責任を持って，お互いに連携・協働できるように円滑な学校運営を推進する
●保護者や地域の願いを把握し，地域ぐるみの学校づくりを推進する
　◆学校評価に基づき，学校運営協議会（コミュニティ・スクール），保護者，地域や関係機関と連携した共同事業の実施と研究実践
　◆教育活動への支援と多様なニーズに応じる地域の教育力の向上

支援部重点目標

≪校内支援の充実≫
●指導部，総務部との連携のもとに充実した校内支援を行い，子どもたちが楽しく学べる学校を目指す
●特別非常勤講師や外部専門家を効果的に活用できるよう各学部と連携し，子どもたち一人一人の継続的キャリアアップを支援する
●校内支援を通して，教職員の専門性向上を図り，個別の包括支援プランをもとにした実践へ活かす
≪地域支援の充実≫
●障害のある子ども，保護者，教職員の継続的キャリアアップを支援する取組を「育」支援センターが推進する
●障害のある子どもが地域の中で安心して生活できるように，地域，学校，福祉等の関係機関と連携し，専門職の活用も視野に入れた新たな「地域」の創造をめざす

保護者重点目標

●学校・地域との連携を密にする
●子どもたちの自立をめざし，子どもたちの「できる」「やってみたい」を大切にした教育（キャリア教育）の考えをもとに，個別の包括支援プランの策定に参画し実施に努める
●地域活動を中心とした余暇活動の充実を図るとともに「双方向の援助」の実施に努める
●子どもたちが安全で暮らしやすい地域環境づくりと，保護者同士の子育て支援の実現をめざし協力し合う

教育改革目標　＜長期に亘って本校がめざすもの

☆キャリア教育を根幹に据えた教育の創造
☆双方向の援助による新たな「地域」の創造
☆地域の支援センターとして機能する育（はぐくみ）支援センター